

よろしく言って

2025年9月21日

ヘブル人への手紙	13章22～25節
使徒の働き	13章15節
テモテへの手紙Ⅰ	1章3節
テモテへの手紙Ⅱ	4章9、13、21節
テトスへの手紙	3章15節（コロサイ人への手紙 4章18節）

序：最近手紙をやりとりすることが少なくなった（特に手書き）

人間同士の交わりの質が希薄化

ことばの重み、そのもとにある思想も軽薄、不用意、熟考が不足

通信が速く便利にはなったが、進化とばかりは言えないのかもしれない

手紙（書簡）には作法（定型）がある

最初と最後にあいさつが入る

キリスト者の場合は祝祷が最後

パウロの手紙 前半：教理（何を信じるか） 後半：実践（どのように生活するか）

教理篇の前に、差出人と宛先

実践篇の終わりに、結びのことば、あいさつ、祝祷

この手紙の結びのことば、あいさつ、 祝祷
22節 23～24節 25節

I. 勧めのことば

このヘブル人への手紙全体が聖徒の信仰と生活における奨励

受け入れてください（耐え忍んでください）

∴手短かに書いた（要点を、現実には照らして、率直に）

II. テモテ（兄弟、同労者）の釈放の報告

テモテ

パウロの第二次伝道旅行以来、同労者、協力者として忠実に仕えた（20才位から）

ルステラ出身、父はギリシャ人、母と祖母はキリスト信者

幼少時から聖書教育を受けた

福音がアジアからヨーロッパに伝えられる大きな新しい展開期の選ばれた器

パウロと活動をとにもすることもあれば、パウロの使者、代理として派遣されたり、パウロが去った後の地で宣教を継続することもあった

ローマではパウロとともに監禁された時期もあった（パウロの慰め、次の段階への準備期間ともなった）

パウロ書簡のうち半数近くの共同執筆者

テモテはこの時点でパウロと一緒にいない 多分、エペソにいた cf. テモテⅠ、Ⅱ

彼がパウロのところに来たら、一緒にヘブル書の読者（ユダヤ人キリスト者）に会いに行く 心待ちにしている

Ⅲ. あいさつ

- (1)すべての指導者たち、すべての聖徒たちによろしく
この手紙はローマの教会の中の1つに送られたが、それ以外の教会や聖徒にも
回覧され、伝えられるよう希望している

- (2)イタリアから来た人たちのあいさつ（あなたがたによろしく）もともに

Ⅳ. 祝祷

- 恵みがあなたがたすべてとともにありますように
テトス 3・15と同じ
コロサイ 4・18が最短の祝祷（「すべて」を欠く）

Ⅴ. 結び

- (1)聖書の勧めは必ずしも私たちの自己中心の罪深い性質にとって快いものではない
初めは苦い、しかしよく噛み味わうなら甘い、有益なものと分かる
勧めのことばにはそういう性質がある ∴耐え忍んで

- (2)聖徒同士や教会同士で安否を問うのは大切な交流
普段会えない聖徒たちが再会するとき
長くごぶさたの人を思い出して連絡をとる（電話、メール、訪問）
「よろしく」のは単なる社交辞令ではない、その人のことを「気に掛けている」
ことの表現である 心がこもっていれば、それによって励まされることも有

(3)別れのあいさつ

キリスト教国のあいさつには「神」が入っている
God be with you ⇒ God by ⇒ Good by (Good morning などに代わった)
ア・ディユー
ア・ディオス
日常的に互いに神の祝福を祈り合っている（祝祷）

日本にはそれがない 「真の神」ではなく汎神論だから
キリスト信者のあいさつは？

理想的な主従間のあいさつ ルツ記 2・4